



新年あけましておめでとうございます。地域の皆様をはじめ、多くの方のご協力により、トキの放鳥開始から14年目を迎えることができました。心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

佐渡島内のトキの動き（2021年12月）



トキのお化粧は黒色で

繁殖に向けた求愛期の訪れを示す羽色変化が確認されました。頭や首の皮膚がはがれ粉状になった黒い物質を頭や背中にこすりつけて色を変えています。羽に何らかの物質を塗りつける「化粧色」はサイチョウやペリカンなど、少なくとも150種類で知られていますが、皮膚による着色を行うのはトキのみです。

天敵から身(巣)を隠すため、繁殖できることを示すためと考えられ、これから繁殖期にかけて着色が進んでいきます。



【着色段階イメージ】



No.419 (新穂地区で撮影)



No.284 (羽茂地区で撮影)

トピック～トキ野生復帰の節目を迎えて～

昨年はトキ保護増殖事業計画が変更されると同時に、トキ野生復帰ロードマップ2025が策定されました。今回のロードマップには本州等での取組の推進についても記載されています。2025年までの短期目標では、佐渡島内で引き続きトキが過密にならず、遺伝的多様性を維持しながら個体数増加傾向を維持することを目標としており、本州等ではトキの生息に適した環境の保全・再生や社会環境整備を進めることを目標としています。

佐渡自然保護官事務所では、佐渡の地域の皆様と協力して着実にトキ野生復帰の取組を進めるとともに、島内の取組を本州等に発信していく所存です。

トピック～2021年を振り返って～

2021年は野生下のトキの推定個体数が478羽（2021年12月末時点）となり、徐々にトキの個体数が増加しています。6月には、かつて日本産トキの重要なエサ場だった「生椿」、9月には前浜地域の「野浦地区」の棚田でトキの放鳥を行いました。同じ年に2つの集落で放鳥を行ったのは初めてのことです。地域の皆様のご協力があり、実現することができました。本当にありがとうございます。



第24回放鳥（生椿）

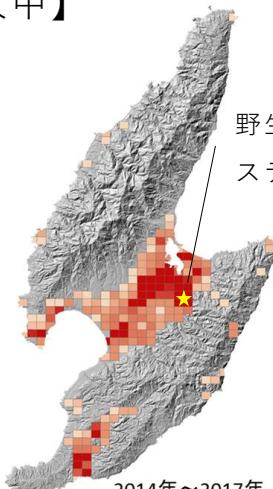


第25回放鳥（野浦）

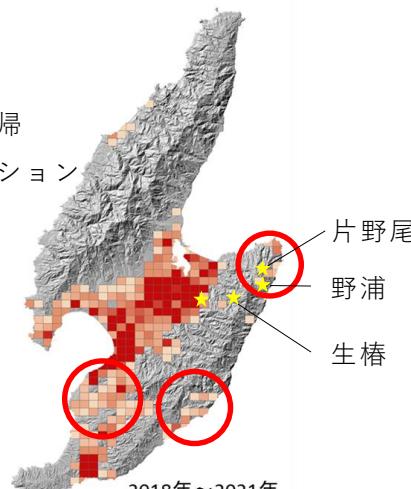
【分布拡大中】

高
出現頻度
低

★ 放鳥地



野生復帰
ステーション



片野尾
野浦
生椿

トキの分布が拡大し、前浜地域でもトキが目撃されることが増えてきました。11月には、第21回放鳥地である片野尾地区の棚田で群れでエサを食べる様子が確認されています。

トキ関連ニュース

※ 高病原性鳥インフルエンザが国内複数箇所で発生しているため、トキ飼育施設では防疫対策を強化しています。

12月1日 佐渡トキ保護センターの飼育ケージ（Aケージ）修繕工事完了

3か月に及ぶ工事が終了し、Aケージにトキたちが帰ってきました。

12月13日 人・トキの共生の島づくり協議会 総会開催

営農と生物多様性保全の両立、トキを活かした地域振興についてなど、幅広い視点で意見交換が行われました。

12月28日 秋田県立大学の野生復帰ステーション見学

トキのエサ場環境としての農地や農業との関係などについて解説しました。

- トキのみがた
- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
 - ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
 - ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
 - ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
 - ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





もうじき立春ですが、佐渡では厳しい寒さが続いています。

野外ではトキが林内で寒さにじっと耐える様子や、晴れ間を狙ってエサ場に降りる様子が観察されています。

佐渡島内のトキの動き（2022年1月）



積雪期のトキのエサ場

1月中、佐渡島内では広く積雪が見られました。トキは普段、水田などを主な餌場としますが、雪によって田面が覆われた際には、雪で覆われていない水路や、湧水によって雪が溶けている水田などを利用します。冬期間は積雪によって餌場が限定されるほか、渡りの猛禽類なども増加し、トキにとって厳しい季節です。

そろそろ繁殖期です

繁殖期になると、集団でねぐらを利用するトキが減り、各地の林に分散します。「最近、林内がさわがしい」という情報は貴重です。同じ林に出入りしている様子などが見られたら、以下まで情報をお寄せください。



トキ目撃情報入力フォーム ▶

トキ目撃情報フリーダイヤル（0120-980-551）

【この時期見られるトキの繁殖行動】



枝渡し
気になる相手に枝を渡します。



ぎこうび
擬交尾
ペアのきずなを確かめ合います。

トピック～とき色のひみつ～



【雪の積もった畠に降り立つトキ】

羽色変化により体は黒くなても、羽の内側は鮮やかな「とき色」のまま。「とき色」はサワガニなどのエサに由来する「カロテノイド」という成分により発色されます。「カロテノイド」は紫外線によって分解されてしまうため、換羽を終えたばかりの秋～冬にかけ、最も鮮やかになります。現在は、雪と「とき色」のコントラストが美しい季節です。

トピック～佐渡にナベヅルが飛来～

ナベヅルはシベリアの南東部から中央部・中国で繁殖し、日本・中国・韓国で越冬するツル類で、冬鳥として鹿児島県出水市に飛来することで有名です。渡来地では開発等による湿地の消失、農薬汚染、狩猟等が主な減少のリスクとなっており、IUCN及び環境省レッドリストで絶滅危惧II類に選定されています。

日本では、一部の地域に越冬個体が集中しており、感染症発生時に大量死が起きるといった懸念があるため、ナベヅルが分散して越冬できるよう、各地で生息環境整備を進めることが重要です。トキと同じく湿地の生きものをエサとするナベヅルのためにも、佐渡の取り組みを全国に広げていきたいですね。

トピック～サドノウサギの足跡～

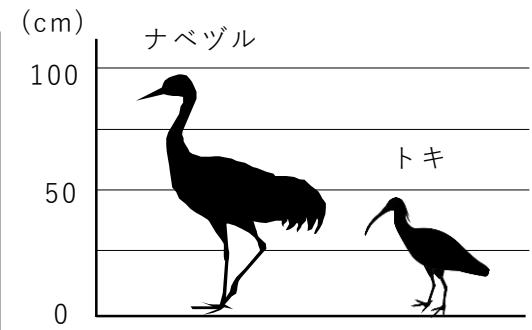
サドノウサギは佐渡島にのみ生息しており、近年減少傾向にあるため環境省レッドリストで準絶滅危惧種に選定されています。薄明薄暮性のため普段は中々見つけることができませんが、積雪期には足跡が見られるため、その存在を身近に感じることができます。ウサギは、後脚で蹴り出し、前脚で着地した後、後脚を着地させるため、足跡が特徴的です。皆さんもサドノウサギの足跡を探してみてはいかがでしょうか。

トキ関連ニュース

2月中旬 第21回トキ野生復帰検討会及び第7回分散飼育地等連絡会議開催（予定）

2月21日 トキの水辺づくり協議会 令和3年度通常総会開催（予定）

2月下旬 令和3年度 第2回 朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラム開催（予定）



【ナベヅル *Grus monacha*】

佐渡では1975年からときどき飛来が確認されています。今季は昨年の12月下旬頃から6羽の飛来を確認しています。



【サドノウサギの足跡】

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





佐渡の最高峰、金北山の雪解けも少しづつ始まりましたが、寒い日が続いています。まだまだ寒い佐渡ですが、あちらこちらの林からトキのオスとメスが鳴き合う声が聞こえ始め、忙しくも嬉しい繁殖期の始まりです。

佐渡島内のトキの動き（2022年2月）



佐渡島ではトキの本格的な繁殖期を迎つつあります。求愛行動が多く見られるようになり、集団ねぐらから営巣林に移っている様子が見られています。一方で、ここ2週間は寒さが厳しく、悪天候が続いているせいか、巣を造るための行動「枝運び」は観察されていません。これから天気が良くなれば、トキたちは一斉に「枝運び」を開始するかもしれません。これから6月にかけてはトキにとってとても重要な季節です。「トキのみかた」を復習して、トキを温かく見守ってください。



トピック～トキの目撃情報をぜひお寄せください～

2021年の繁殖期には、佐渡島内の広い範囲でトキの繁殖活動が確認されました。佐渡島内のトキの繁殖状況を把握するためには、皆様からのトキ目撃情報が必要です。特に繁殖期（2月～6月）はトキ目撃情報が不足しており、たとえ小さな情報でも、トキの野生復帰において大きな手がかりとなります。

「最近、林内がさわがしい」「トキが枝を運んでいる」このようなトキの行動を見かけましたら、情報を寄せただけると幸いです。



枝渡しをしているトキ

電話で 0120-980-551

インターネットで

トキ目撃情報



枝運びしているトキ

トピック～第21回トキ野生復帰検討会開催～

2月17日、第21回トキ野生復帰検討会が開催され、本州等における取組の進め方等について議論が行われました。今後、本州等でのトキ定着を図るため、「トキとの共生を目指す里地」を公募します。選定された地域においては先進的な地域である佐渡市との間で交流を図り、先進事例を参考にしながら環境整備等の取組を進めていただく方針です。トキとの共生を実現することは決して簡単なことではありませんが、佐渡の人々の思いとノウハウが受け継がれ、実現に近づいていくものと思います。

岡久雄二専門員退職のご挨拶



トキのヒナへの足環装着時の写真

希少種保護増殖等専門員の岡久です。この度、環境省を退職し、愛知県にある人間環境大学へ助教として着任することになりました。

これまで7年間ほどトキの保護増殖に携わってきました。着任当初はトキの数が140羽ほどしかおらず、とても臆病な鳥だったのですが、今では個体数が480羽ほどにまで増え、トキと人の距離が接近して、本当の意味で「トキと共生する佐渡」になったことを実感しています。

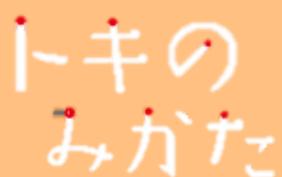
立場は変わりますが、今後は研究者として佐渡とトキに関する調査・分析を行っていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

佐渡自然保護官事務所の希少種保護増殖等専門員募集中！

希少種保護増殖等専門員は専門的知見（生態学、獣医学又はその関連分野）を有する期間業務職員で、トキ保護増殖事業に関する諸計画の立案、順化訓練・放鳥・モニタリングの実施、データ整理・分析をはじめとする各種業務に携わっていただきます。もしご興味のある方がいらっしゃれば、応募をご検討いただけますと幸いです。詳しくは以下のウェブサイトから募集要項をご確認ください。

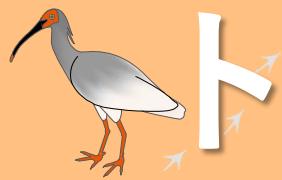
令和4年度 佐渡自然保護官事務所（希少種保護増殖等専門員）の募集について

http://kanto.env.go.jp/to_2022/post_298.html



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版

環境省
Ministry of the Environment 佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和4年4月1日・第115号

佐渡島では、いたる所でフキノトウが顔を出し、ウグイスのさえずりを頻繁に聞くようになるなど、春の訪れを感じる季節になりました。早いペアでは営巣・抱卵が確認され、トキの繁殖活動が本格化しています。



佐渡島内のトキの動き（2022年3月）



今期初の営巣・抱卵を確認

3月17日に新穂地区でNo.385/258ペアと野生生まれの足環なしペアの今期初の営巣が確認されました。また、3月25日には佐和田地区（野生生まれの足環なしペア）と羽茂地区（No.320/野生生まれの足環なしペア）で今期初の抱卵が確認されました。トキの抱卵期間は約1か月。ヒナの誕生が楽しみですね！



No.385/258ペア（新穂地区）



野生生まれの足環なしペア（佐和田地区）



No.320/足環なしペア（羽茂地区）

【巣を整えている様子】

【抱卵している様子】

トピック～本州トキ飛来情報（長岡市）～

3月12日（土）午前10時50分頃に、トキ1羽が長岡市内の水田で探餌する様子を、長岡市民が確認しました。また、同日午後0時10分頃に、トキ1羽が長岡市内を飛翔する様子を新潟市民が確認しました。長岡市民及び新潟市民により撮影された同個体の写真を確認したところ足環のないトキ（成鳥、性別不明）であることが判明しました。



写真：長岡市民提供



写真：新潟市民提供

本州側で新たに確認されたトキは、令和3年4月30日（金）に富山県富山市で確認されたB97（2020年野生生まれ、メス）に続き、28例目となります。なお、野生下で誕生したトキの確認としては11例目となります。

トピック～第26回放鳥に向けた順化訓練開始～

17羽のトキについて、3月8日より第26回放鳥に向けた順化訓練を開始しました。放鳥は6月上旬頃を予定しています。今回は、中国から2018年に供与された樓樓（ロウロウ）の系統にあたる個体（2羽）の順化訓練を初めて開始しました。



トピック～島外・訪日外国人向けの普及啓発の強化～

「トキのみかた（本州等版）」リーフレットができました！

佐渡島外にもトキの味方を増やすために、「トキのみかた（本州等版）」を作成しました。本州等版の表紙は水色です！島外でも環境整備等が進み、大空を羽ばたき海を渡るトキが増えると良いですね。



普及啓発ツールを多言語化しました！

①トキのテラスの展示物、②YouTube動画「トキ野生復帰2015」「トキの舞う佐渡」、③関東地方環境事務所HP掲載の「トキ野生復帰概要」を英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語に翻訳し多言語化しました。

トキ保護増殖事業



トキのみかた（本州等版）や多言語化資料の一部は関東地方環境事務所のウェブサイトで確認できます。

トキ関連ニュース

3月8日 [第26回放鳥に向けた順化訓練開始](#)

3月12日 [新潟県長岡市に野生生まれのトキ飛来](#)

3月16日 [令和3年度生物多様性佐渡戦略推進会議開催](#)

3月17日 [今期初のトキの営巣確認](#)

3月21日 [新潟大学シンポジウム2022開催（佐渡）](#)

3月25日 [今期初のトキの抱卵確認](#)

トキを見かけたら

現在、トキは繁殖期を迎えています。巣を見つけても近づかないでそっと見守りましょう。巣を見つけた時は以下の連絡先まで情報を寄せいただけますと幸いです。島外の情報もお寄せください！

0120-980-551



トキ目撃情報



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





佐渡島では、キビタキやツツドリなど夏鳥の鳴き声が聞こえる季節になりました。野生下のトキは今年も待望のヒナが誕生し、11年連続のヒナ誕生となりました。



佐渡島内のトキの動き（2022年4月）



祝・野生下でヒナ誕生 11年連続

4月25日にNo.385/258ペア（新穂地区）と野生生まれの足環なしペア（佐和田地区）の2ペアについて、今期最初のヒナが誕生しているのを確認しました。野生下でのヒナ誕生は11年連続となります。このうち1ペアは野生下で誕生したトキ同士のペアであり、野生下で誕生したトキ同士のペアからのヒナ誕生は7年連続となります。



足環なし/足環なしペア（佐和田地区）

佐和田地区のペアでは2羽の誕生が確認されました。

トピック～本州トキ飛来情報（長野県大町市）～

4月19日（火）午前10時00分頃に、トキ1羽が長野県大町市内の水田で探餌する様子を、大町市民が確認しました。同日、佐渡自然保護官事務所に連絡が入り、大町市民により撮影された同個体の写真を確認したところNo.455であることが判明しました。



写真：大町市民提供

本州側で新たに確認されたトキは、令和4年3月12日（土）に新潟県長岡市で確認された足環のないトキ（成鳥、性別不明）に続き、29例目となります。



ナンバーリング（No.455）

写真：大町市民提供

本州等の貴重な目撃情報を
ぜひお寄せください！！



0120-980-551



トキ目撃情報



トピック～トキと共生する里地づくり公募開始（5月）～



なぜ、本州等でトキ定着に向けた取組を推進するのか

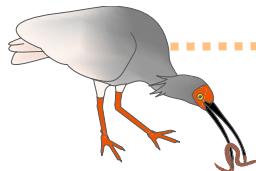
佐渡ではトキの野生復帰が順調に進んでおり、昨年末時点で約480羽（推定）まで増加して個体数が安定しつつありますが、トキが日本の自然の中で安定的に生息していくようになるためには、より多く個体が複数の地域に分散して生息する状況を目指す必要があります。

しかし、これまでに本州等でのトキの定着は実現していないため、本州等でもトキが生息していく良好な環境の保全・再生や社会環境整備を進める必要があります。

また、これまでに佐渡から本州に渡ったトキは29羽確認されていますが、佐渡島内での密度が上がっても本州等に渡る個体は増えていないこと、本州に渡った29羽のうち個体識別できた22羽の性別はオス2羽、メス20羽で著しくメスに偏っていることから、トキが自然に分散して本州等で繁殖し、定着するのは難しいかもしれません。将来的には本州等でのトキ放鳥※を目指す必要があると考えられます。

これらのこと踏まえて、広範囲でのトキの定着と里地の保全活動の促進を図るために、環境省では、トキと共生する里地づくりに取り組む自治体の公募を5月より開始する予定です。

※将来的な本州等でのトキ放鳥の前提として、実施可能性・要件・方法・手順等を慎重に検討・整理し、実施できるか判断する必要があります。



もっと見て、知りたい！トキのこと。



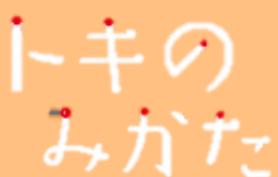
佐渡自然保護官事務所 公式Twitter及びFacebook

野生下のトキの最新情報や、
野生下でたくましく生きるト
キの写真を掲載しています。



アクティブ・レンジャー日記

アクティブ・レンジャーとは、自然保護官の補佐役として、国立公園や野生生物の調査などを担う環境省の職員であり、佐渡自然保護官事務所では2名が活動しています。



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





島に吹く風が心地よく感じられる時期になりました。佐渡ではトビシマカンゾウが見頃を迎えつつあります。野生下ではヒナの巣立ちが確認されました。11年連続の巣立ちです。



佐渡島内のトキの動き（2022年5月）



祝・野生下でヒナ巣立ち 11年連続

佐和田地区において、4月25日にヒナを確認していた野生下のトキ1ペアについて、5月26日に今期最初の巣立ちを確認しました。野生下での巣立ちは11年連続となります。また、野生下で誕生したトキ同士のペアからの巣立ちは7年連続となります。

5月13日には今回巣立った3羽のヒナに足環（No.C63,C64,C65）を装着しました。



足環装着時のヒナ（5月13日）

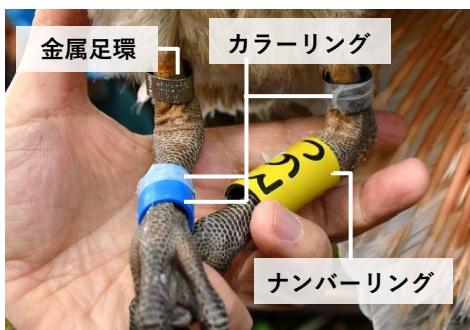
13日後



巣立ちしたヒナ（5月26日）

トピック～野生下トキのヒナへの足環（あしわ）装着～

個体を見分けるため、佐渡の野生下で生まれたヒナの一部に足環を装着します。足環は、①国際規格の金属足環、②個体の識別番号が刻まれたナンバーリング、③識別する際の補助となるカラーリングの3種類です。この足環を装着することで個体毎の行動を把握し、得られた情報を野生復帰の取組みに活かします。



獣医師による足環装着作業



足環装着後のヒナ（No.C68）

トピック～野生下トキのヒナの天敵対策～

トキの天敵にテンという肉食哺乳類がいます。テンは木に登るのが上手なため、樹上の巣にいるヒナを捕食することができます。まだ飛べないヒナはテンに襲われやすいです。こうしたテンの捕食に対する対策として、営巣木への登攀防止対策を行っています。つるつるした樹脂製の板を木の幹に巻き付けることで、テンが木に爪をかけて巣まで登れないようにします。

人の手によって佐渡島に持ち込まれたテンに罪はありませんが、トキにとっては恐ろしい天敵です。これからも対策を継続していきます。



テン（トキの天敵）



営巣木への登攀防止対策

トピック～本州等でのトキ野生復帰候補地の公募開始～

環境省では、本州等におけるトキの定着を目指し、トキと共生する里地づくりを推進するため、5月10日から「トキと共生する里地づくり取組地域」の公募を開始しました。将来的に再導入（放鳥※）によるトキの野生復帰を目指して環境整備を進める「トキの野生復帰を目指す里地」と、飛來したトキが生息できる環境整備を進める「トキとの共生を目指す里地」を公募しています。公募期間は6月30日までで、選定された地域では、環境省の技術的支援等を受け、また、佐渡市や他の「トキの野生復帰を目指す里地」等と交流を図りながら、トキと共生する里地づくりを進めます。

※将来的に本州等で放鳥するには、トキ野生復帰の取組の関係者の合意形成、生息環境や社会環境の整備状況の要件の検討、本州までトキを運んで安全に放鳥する方法・手順の技術的検討等が必要となります。

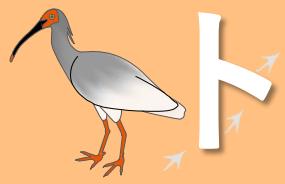
トキ関連ニュース

5月13日 野生下トキのヒナへの足環装着開始

6月7日 第26回放鳥（ソフトリリース）

- トキの
みがた
- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
 - ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
 - ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
 - ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
 - ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版

環境省 佐渡自然保護官事務所
Ministry of the Environment TEL : 0259-22-3372

令和4年7月1日・第118号

涼しかった夜も、夏らしい暑さを感じる時期になってきました。

今年も巣立った幼鳥たちが、元気に田んぼでエサを探す様子が観察されています。



佐渡島内のトキの動き（2022年6月）



野生下トキの2022年繁殖状況（6月29日時点）

野生下では17組から計41羽の巣立ちが確認されています。このうち、10組の計28羽は、野生下生まれ同士のペアから誕生した「純野生トキ」です。今年も巣立った幼鳥が田んぼで採餌する様子が観察されています。



今年生まれた幼鳥と親鳥

トキの成鳥と幼鳥の見分け方 3つのポイント



①顔、眼の色

成鳥 → 赤色の顔、オレンジ色の眼

幼鳥 → オレンジ色の顔、灰色の眼

②くちばし、冠羽

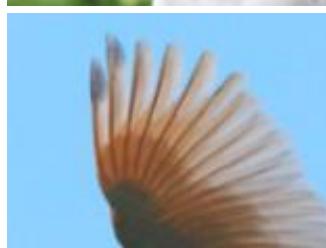
どちらも成鳥と比べ、幼鳥の方が短い。

③羽の色

成鳥 → 翼を広げると成鳥は鮮やかなとき色

幼鳥 → 翼を広げると幼鳥は薄いとき色

翼の一番外側の羽に黒色が残る個体
もいます。



【成鳥】

【幼鳥】

トキ関連ニュース

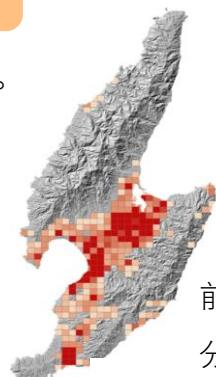
6月2日 行谷小学校でトキの生態について出前授業をしました。

6月7日～10日 第26回放鳥（ソフトリリース）を実施しました。

6月14日 行谷小学校の水辺の生きもの調べに参加しました。

6月23日 第27回放鳥に向けた順化訓練を開始しました。

6月27日 島内全域でトキの分布調査を開始しました。



前浜・外海府で
分布拡大中...

トピック～第26回放鳥が無事終了しました～

6月7日～10日に野生復帰ステーション順化ケージより、17羽のトキをソフトリリース方式で放鳥しました。今回の放鳥では、2018年に中国から提供された樓樓（ロウロウ）の系統にあたる個体（No.461・No.472）を初めて放鳥しました。これからもトキを温かく見守っていただければ幸いです。

また、9月下旬に実施する第27回放鳥に向けて、6月23日より、トキ16羽の順化訓練を開始しました。今回の訓練個体の中には、中国から2018年に提供された樓樓（ロウロウ）の系統にあたる個体（2羽）及び閑閑（グワングワン）の系統にあたる個体（2羽）が含まれます。約3ヶ月かけてトキは野生下で生きていく能力を身につけていきます。



飛翔するNo.461



順化ケージ内に放たれたNo.481



順化ケージ内を歩くNo.483

【第26回放鳥】

【第27回放鳥に向けた順化訓練開始】

トピック～アメリカザリガニについて学ぼう～

6月14日に行谷小児童が元気に川や田んぼで生き物調査を行いました。調査ではカエルなどの水辺の生きものが観察されました。右田自然保护官補佐が同行した班では、たくさんのアメリカザリガニがとれました！



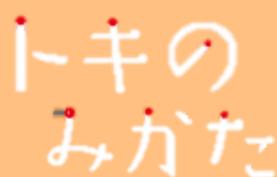
捕まえたアメリカザリガニ

外来種問題は環境省学習ツールをご活用ください！

環境省では、アメリカザリガニによる外来種問題を学校教育の場で学んでいただくために学校教育用教材を公開しています。教材は教科・学年別に作成されており、具体的な授業活用例も紹介しています。忙しい学校の先生にぜひご活用いただきたいツールです。

環境省 アメリカザリガニ 学習ツール

検索



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





セミの鳴き声が響くなか、巣立った幼鳥がおとなのトキの群れに混ざって一緒にエサをとる様子が見られるようになりました。



佐渡島内のトキの動き (2022年7月)



野生下のトキの2022年の繁殖結果 (速報値)

野生下では22組から計51羽の巣立ちを確認しました！このうち、12組の計31羽は、野生下生まれ同士のペアから誕生した「純野生トキ」です。

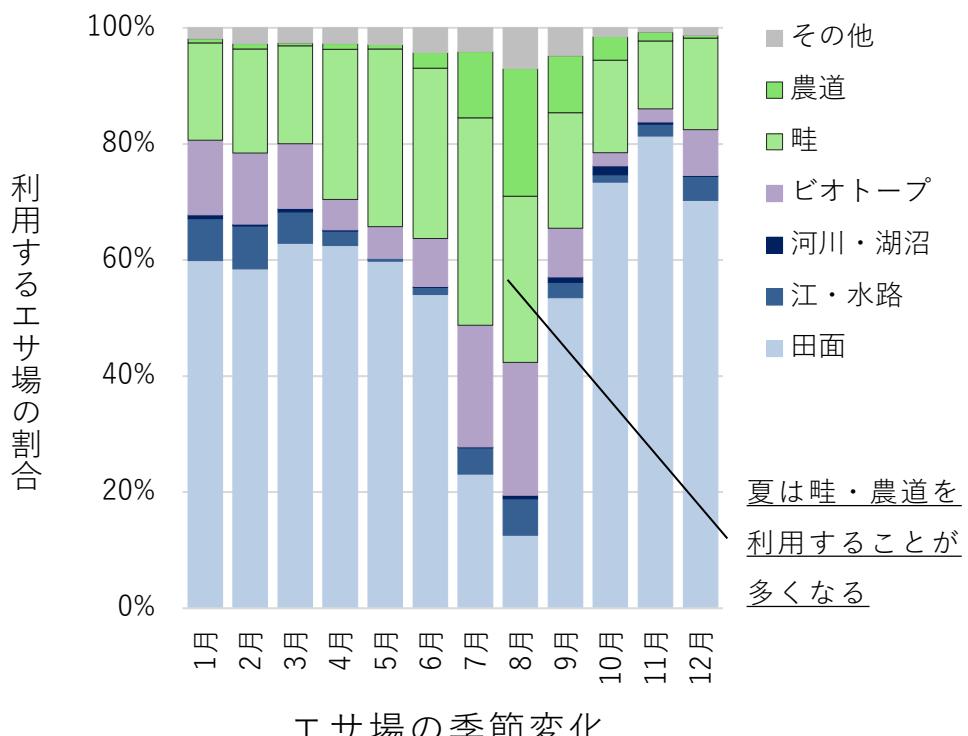
今年も巣立った幼鳥が田んぼで採餌する様子が観察されています。



7月28日に巣立ったC90

トピック～生きものを育む「みどりの畦（あぜ）」～

田んぼを主なエサ場とするトキは季節によりエサ場を変えます。夏は稲が生長するため、田んぼの中に入ることができなくなり、田んぼの「畦（あぜ）」や農道を利用することが多くなります。佐渡島の農家さんの多くは除草剤の使用を避け、定期的な草刈りを行うことで畦の管理を行っています。こうした方法で管理されている畦は草が青々と茂り、トキがエサとするミミズや昆虫類の生息場所となっています。



トピック～朱鷺と暮らす郷×田んぼアート～

佐渡では2007年からトキのエサ場の確保と生物多様性の米づくりを目的とした「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を立ち上げ、「生きものを育む農法」などによる佐渡産コシヒカリブランド「朱鷺と暮らす郷」を生産しています。

2017年より始まった「朱鷺と暮らす郷×田んぼアート」は今年で5作目。今がちょうど見頃です。人とトキの共生という佐渡の農業のあり方を伝えてくれています。

「朱鷺と暮らす郷づくり」認証基準

- ・水田での江の設置
- ・ふゆみずたんぼ
- ・魚道の設置
- ・ビオトープの設置
- ・「生きもの調査」の実施
- ・農薬や化学肥料を削減
- ・佐渡で栽培されたお米



【今年の田んぼアート（7.26撮影）】

トピック～中川環境大臣政務官の視察(トキ・脱炭素)～

7月20、21日に環境省の中川環境大臣政務官がトキの野生復帰の状況および脱炭素先行地域の取り組みを視察するため佐渡島に来島しました。トキ関連では佐渡トキ保護センターやトキの森公園、トキのテラスなどの施設を視察し、トキの飼育、繁殖に携わる獣医師らからトキ野生復帰の状況等について説明を受けました。また、先日脱炭素先行地域に選定された佐渡市の渡辺市長と離島における再生可能エネルギーを活用した持続可能な社会づくりについて意見を交わしました。



トキ関連ニュース

- 7月3日 朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラム開催
7月13日 今年の野生下トキのヒナへの足環装着終了
7月14日 人・トキの共生の島づくり協議会総会開催
7月20日～21日 中川環境大臣政務官の佐渡視察



28羽のヒナにC63～C90の足環を装着

- トキの
みがた
- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
 - ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
 - ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
 - ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
 - ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





美しい稻穂が秋の訪れを感じさせる季節となりました。島内では、繁殖期を終えたトキがまとまって行動する様子が観察されています。



佐渡島内のトキの動き（2022年8月）

繁殖期中はペアで過ごしていたトキですが、その後は徐々に、群れで行動するようになります。島内では、10羽～数十羽のトキが同じ止まり木で休む様子や、同じねぐらやエサ場を利用するなど、トキが群れで行動する様子が観察されています。

9月になると1年中で最大規模の群れとなります。群れることで、天敵に襲われる危険性を減らすことができると考えられており、若鳥は群れの中からペアになる相手を探す傾向が見られます。



飛翔する26羽のトキ



田んぼに集まる9羽のトキ

トピック～非繁殖期の生態（集団ねぐら）～

トキは集団でねぐらをとり、佐渡島ではこれまでに最大で100羽以上が利用するねぐらが確認されています。集団ねぐらをとることは、夜間における安全確保、エネルギーの節約、採餌効率の向上、社会性を保つことに機能すると考えられています。また、トキはねぐらにおける人間や猛禽類の干渉に敏感であることも分かっています。人間と同じようにトキにとっても睡眠は必要不可欠なものです。トキのねぐらを見つけたときは、十分な距離を取って静かに観察するようにしましょう。

トキの観察マナーについては「トキのみかた」をご覧ください。



早朝の集団ねぐら



「トキのみかた」リーフレットは島内のトキ関連施設等で配布しています。関東地方環境事務所のウェブページからPDFのダウンロードも可能です。トキの見方を学んでトキの味方になります。

トピック～トキと共生する里地づくり取組地域選定～

「トキと共生する里地づくり取組地域」について選定委員会が審査した結果、5地域を選定、1地域を継続審議としました（8月5日時点）。

今後は、今回選定された5地域、トキと共生する里地の先進地である佐渡市、環境省及びその他関係機関で「トキと共生する里地づくり協議会（仮称）」を本年12月頃を目処に設置し、関係機関が連携しながら本州でのトキ定着を目指します。

トキの野生復帰を目指す里地

- ・石川県及び県内9市町
 - ・島根県出雲市
- ＜継続審議中＞
- ・新潟県及び県内5市町村

将来的なトキの野生復帰を目指し
環境整備を進める地域

トキの共生を目指す里地

- ・宮城県登米市
- ・秋田県にかほ市
- ・コウノトリ・トキ舞う関東自治体フォーラム

飛来したトキが生息できる環境整備を進める
地域（放鳥は行わない）

トピック～トキの森公園でトキ写真展開催～

トキの森公園でトキ写真展を開催いたします。環境省佐渡自然保護官事務所の自然保護官補佐（アクティブレンジャー）が日々のモニタリングで撮りためたトキの写真を展示します。トキ本来の姿を観察するための方法も知ることができるので、観察方法を参考にしながら野生下のトキを観察してみてください。

開催期間 2022/9/16（金）～2022/11/30（水）



トキ写真展会場地図

トキ関連ニュース

- 8月5日 トキと共生する里地づくり取組地域選定結果発表
8月17日 佐渡・能登里山里海子ども交流
9月上旬 トキねぐら出一斉カウント（予定）
9月下旬 第27回トキ放鳥（予定）



子ども交流の様子

- トキの
みがた
- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
 - ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
 - ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
 - ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
 - ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





佐渡では稻刈りが最盛期を迎えています。

稻刈り後の刈田に集合するトキが島内のいたるところで見られます。



佐渡島内のトキの動き（2022年9月）

第27回放鳥を行いました！

9月21日（水）に佐渡市片野尾地区の棚田で8羽のトキをハードリリース方式により放鳥しました。これまで、片野尾地区の棚田では環境保全型農業やビオトープ整備の取組が地域住民主体で行われてきました。放鳥当日は約45名の地域住民の方々が見守る中、放鳥箱よりトキが飛び立ちました。



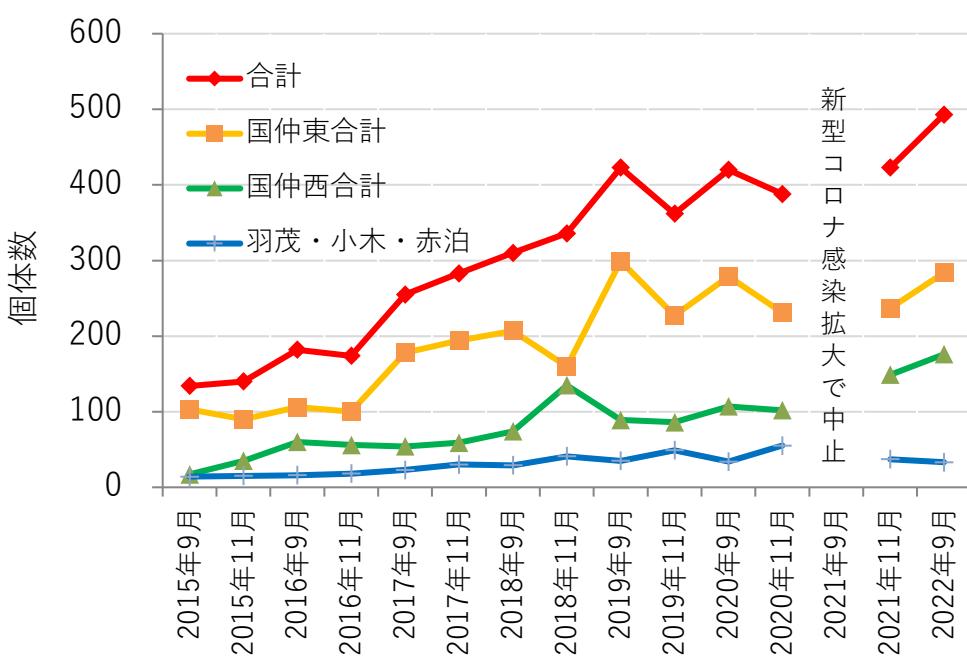
ハードリリースの様子

9月29日（木）から野生復帰ステーションの順化ケージからのソフトリリース方式による放鳥を行いました。初日は1羽、2日目は4羽、3日目に3羽が順化ケージから飛び立ちました。2日目、3日日の朝は片野尾で放鳥したNo.480が順化ケージ付近で仲間たちが出てくるの見守っていました。第27回放鳥個体の今後の動きに注目です。



ソフトリリースの様子

トピック～トキねぐら出一斉カウントの結果～



今回の調査は9月8日～10日の3日間に、のべ62人で佐渡島の46地点において調査を行い、合計493羽のねぐら出が確認されました。昨年11月の調査では423羽が確認されていたため、今回の調査は70羽ほどねぐら出が増加しました。

トピック～野生復帰ステーションの一般公開（予定）～

10月22日（土）に野生復帰ステーションの一般公開を行う予定です。トキの野生復帰のための順化訓練を行う施設である野生復帰ステーションを一般公開し、訓練や放鳥の方法等について説明や、放鳥トキの訓練を行う順化ケージなどの非公開施設内部を実際にご覧いただける貴重な機会です。見学には事前申し込みが必要です。申込方法等の詳細は佐渡トキ保護センターのウェブページでご確認ください。



トピック～トキとドジョウの話～

佐渡島のトキはミミズ、カエル、昆虫などいろいろな動物を食べますが主なエサの一つがドジョウです。ドジョウは人間の食べものとしても流通していますが、トキの飼育時にも使用します。佐渡トキ保護センターでは馬肉飼料やペレットも与えていますが、個体差はあるもののトキが一番好きなエサはドジョウのようです。2021年度は約3トンのドジョウを使いましたが、日本産ではまとまった量のドジョウを調達することは難しく、多くは中国から輸入しています。



ドジョウ（上）とカラドジョウ（下）

ドジョウを輸入すると、中国産ドジョウに混じって大陸原産の別種、カラドジョウが入ってくることがあります。カラドジョウを含む輸入ドジョウは在来のドジョウと競合や交雑をして在来のドジョウを駆逐してしまうおそれがあります。このため佐渡トキ保護センターでは、飼育ケージ内の池の排水口にドジョウが通れないよう金網を設置するなどしてドジョウを逸出させないようにしています。

トキ関連ニュース

9月21日 第27回放鳥（ハードリリース）実施

9月29日-10月1日 第27回放鳥（ソフトリリース）実施

10月1日-2日 西村環境大臣視察（脱炭素・トキ保護増殖事業）

10月14日 トキ野生復帰検討会開催（予定）

10月22日 野生復帰ステーション一般公開（予定）

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





第27回放鳥から1か月。秋も深まり、山よそおう時期となりました。

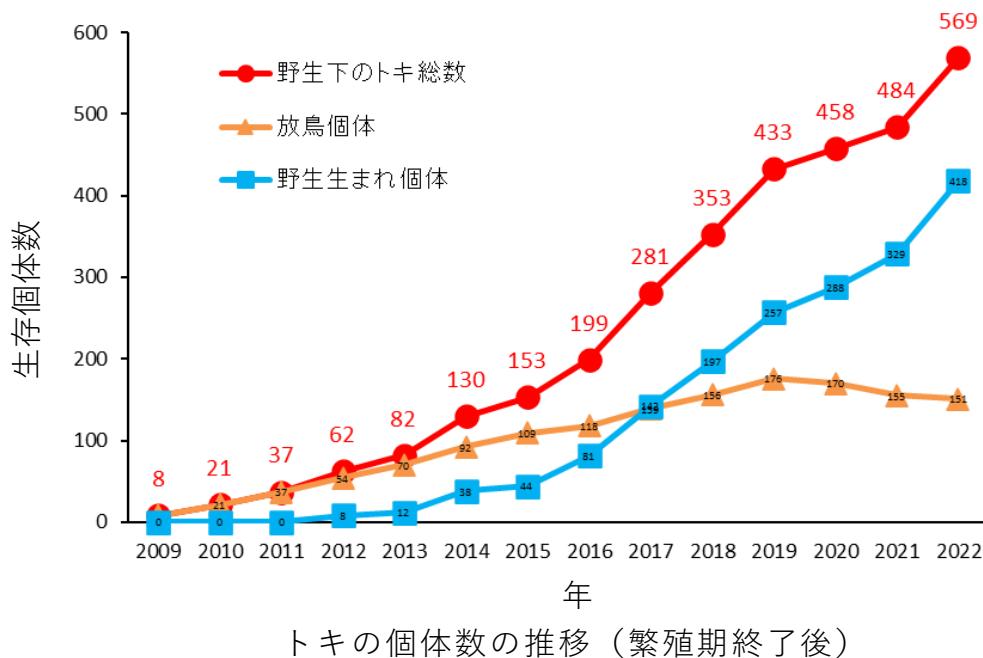
島内各地で渡り鳥も見られるようになり、冬鳥の本格シーズン到来です。



佐渡島内のトキの動き（2022年10月）

祝 推定個体数500羽を突破！

2022年繁殖期終了後の野生下のトキの推定個体数が569羽となりました（2022年8月31日時点）。個体数の内訳は放鳥個体が151羽、野生生まれ個体が推定418羽（足環装着個体158羽、足環なし個体260羽）となっています。



※2019年以降は統合個体群モデルによる推定値
※2019年は10/23時点、2020年・2021年は9/29時点、2019～2021年以外は8月31日時点

第27回放鳥個体たちも元気です！



飛翔するNo.476



刈田で採餌するNo.485

トピック～トキの分散飼育と移送～

トキの飼育施設は、佐渡以外に4か所あり（多摩動物公園、いしかわ動物園、長岡市トキ分散飼育センター、出雲市トキ分散飼育センター）、鳥インフルエンザ等の感染症のリスク回避などのため分散してトキの飼育繁殖を行っています。

10月27日（木）には出雲市トキ分散飼育センター・いしかわ動物園から佐渡トキ保護センターへ放鳥候補等として11羽が移送されました。各地で育ったトキやその子孫が、佐渡の空をはばたいています。



移送個体の搬入



ケージ内へ放鳥

トピック～高病原性鳥インフルエンザ防疫強化～

9月25日（日）に神奈川県で回収されたハヤブサから高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されて以降、宮城県、福井県、北海道、新潟県でも野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されています。新潟県内では2例確認されており、注意が必要な季節となりました。佐渡島内のトキ飼育施設（佐渡トキ保護センター、野生復帰ステーション、トキの森公園）では、トキへの感染を予防するため、消毒槽の設置や消石灰の散布などを行い防疫対策を強化しています。



ゲート前消毒槽



道路にまく消石灰

トピック～ネイチャー・ポジティブ宣言～

10月23日（日）にネイチャー・ポジティブシンポジウムが開催されました。第1部では、「生物多様性を巡る世界の流れ」「ネイチャー・ポジティブとビジネスに関する国内外の動き」に関する基調講演、第2部では「世界農業遺産（GIAHS）を活かした生態系サービスの最適化と地域の戦略」「ネイチャー・ポジティブの実現に向けた地域づくり」についてパネルディスカッションが行われました。シンポジウムの最後には佐渡市長から以下の宣言がありました。

ネイチャー・ポジティブ佐渡島宣言

- 1 佐渡市では、保護地域および保護地域以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所（OECM）が既に30%を超えており、今後、さらに拡充させること
- 2 他地域の生物多様性を減少させる資源の移入・使用について、現状を把握し、削減に努めるとともに、自然環境や生物多様性の保全を発展的に展開することで、新たな産業創出等につなげること
- 3 トキとの共生を実現した地域として、ネイチャー・ポジティブに向けた知見・経験を他地域と共有しながら、生物多様性パートナーシップを拡大すること

トキ関連ニュース

- 10月13日 第8回分散飼育地等連絡会議開催
10月14日 第22回トキ野生復帰検討会開催
10月22日 野生復帰ステーション一般公開
10月30日 赤玉集落でトキ共生座談会開催



赤玉での共生座談会



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





12月に入って早々に大佐渡山地で初冠雪が確認されました。いよいよ本格的な冬の到来です。もうじきトキの住む里地にも雪が降りそうです。

佐渡島内のトキの動き（2022年11月）

佐渡では今年生まれの幼鳥が元気に田んぼでエサを採っている様子が観察されています。数か月前まで顔がオレンジ色だった幼鳥も今ではすっかり大きくなり、大人のトキと見分けがつかないくらいましく育っています。



トラクターのわだちが冬のトキのエサ場に！

佐渡では稻刈り後の冬でも水を張った田んぼが散見されます。こうした「ふゆみずたんぼ」は生きものが越冬する場所として重要です。また、佐渡の「ふゆみずたんぼ」の特徴として田んぼ全面に水を張らずにトラクターのわだち跡をつけるタイプのものがあります。こうした環境はトキの重要なエサ場となっています。



ふゆみずたんぼ準備（9月頃）



ふゆみずたんぼで採餌するトキ

トピック～トキと共生する里地づくりネットワーク協議会～

11月28日（月）に第1回トキと共生する里地づくりネットワーク協議会が開催されました。この協議会は、佐渡市における先進事例を参考としながら、「トキと共生する里地づくり取組地域※」間で情報共有・交流等を行い、本州においてトキが生息できる環境整備を円滑に行うことを目的として発足したものです。

当日は、関係地方公共団体から地域の自然環境や取組などの概要説明、環境省と佐渡市からこれまでのトキ野生復帰の取組が紹介されました。また、29日（火）には島内のトキ関連施設や認証米水田などを視察しました。

※石川県他9市町、島根県出雲市、秋田県にかほ市、宮城県登米市、コウノトリ・トキ舞う関東自治体フォーラム



ネットワーク協議会の様子

トピック～佐渡にやってくる渡り鳥～

この時期になるとコハクチョウやヒシクイなどの水鳥が、遙か遠いシベリアから佐渡にやってきます。その距離なんと約4000km。佐渡は渡り鳥の越冬地・中継地にもなっており、佐渡からさらに本州等へ渡る個体は飛び続けて疲れた羽を休めて次の目的地へ向かいます。

佐渡では田んぼ全面に水を張らずにトラクターのわだち跡をつけるタイプの「ふゆみずたんぼ」が多いですが、広く田面に水を張った田んぼはこうした渡り鳥のねぐらにもなっているのです。トキ野生復帰の取組はトキだけではなく、様々な生きものを支えています。



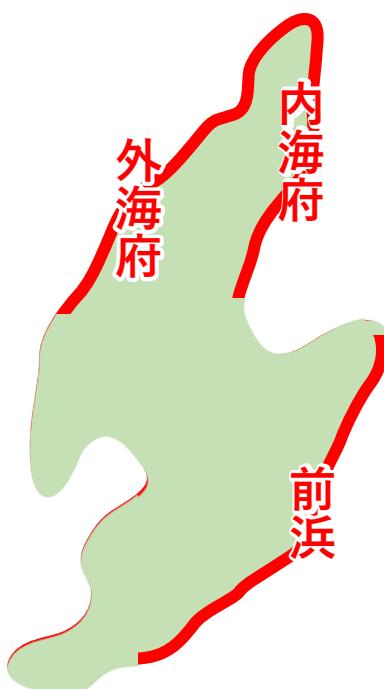
コハクチョウ



ヒシクイ

トピック～外海府・内海府・前浜の目撃情報収集中～

求む！トキ目撃情報



電話受付はこちら

0120-980-551

ネットからも受付

トキ目撃情報

検索

佐渡島内に推定500羽以上が生息し、分布も拡大中です。情報の少ない**外海府方面・内海府方面・前浜方面の情報**をぜひお寄せください。

今年、最初に巣立ちを迎えたのは民家の裏の林で子育てをしていたトキの子どもたちでした。「家の近くで子育てしてたよ」という情報をお持ちの方はぜひご連絡ください。

トキ関連ニュース

11月15日 人・トキの共生の島づくり協議会部会開催

11月28日 第1回トキと共生する里地づくりネットワーク協議会開催

11月29日 トキと共生する里地づくりネットワーク協議会現地視察

- トキのみがた
- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
 - ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
 - ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
 - ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
 - ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。

